

## 小森家文書目録解題

小森家は、古い時代からの高田町の町名主を務めた家柄である。

『上越市史通史編 4 近世二』(303 ページ・表 156)によると、天和年間(1681~84)と貞享5年(1688)の記録に桶屋町町名主に小森清左衛門の名があり、正徳2年(1712)桶屋町と本杉鍛冶町の名主に小森清兵衛がある。また享保17年(1732)には森杉町と桶屋町の名主に小森四郎右衛門の名があり、寛保元年(1741)には、小森四郎右衛門が杉森町・桶屋町・本大工町・元府古町の4か町の町名主を兼帯している。

史料の中心は、幕末の伊勢町・出雲町・関町・桶屋町・杉森町・上小町・中小町・上職人町など高田町のうちの8か町の町割り図である。町絵図の伝存がきわめて少ないなかでの伝来で非常に有難い。

また高田城絵図が5種類あり、近代初頭の旧高田城郭内の官衙、刑務局・民政局・軍事局・習書寮・用度局などの平面図や立面図が残されている。旧高田城は明治3年(1870)に全焼し、明治4年には、城地はすべて陸軍省の所有となった。明治19年(1886)ころ、陸軍省は郭内の建造物をすべて払下げ、取り壊した。この後、高田城はその所有関係がはげしく変転する。小森家に残る官衙図は、明治6年(1873)の紀年銘があり、時期的には陸軍省の所有に帰してからだが、内容からして、高田(柏崎)県時代のもので、いずれにしろこの絵図が描かれた後、間もなく取り壊しの運命をたどったものに違いない。

この時代の高田城の記録はほぼ絶無に近いので、この官衙図は高田の近代史研究にはきわめて有用な得難い史料である。



(上小町絵図)名主卷瀧栄太郎  
(安政4年)軒別表口間数・町役・家長名